

令和3年白老町議会人口減少に対応する政策研究会会議録

令和3年12月 8日（水曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前11時12分

○会議に付した事件

協議事項

1. 視察の振り返り
 2. 政策提言について
-

○出席委員（6名）

座 長	大 淵 紀 夫 君	副 座 長	佐 藤 雄 大 君
委 員	西 田 祐 子 君	委 員	久 保 一 美 君
委 員	長谷川 かおり 君	委 員	森 哲 也 君

○欠席委員（2名）

委 員	氏 家 裕 治 君	委 員	貳 又 聖 規 君
-----	-----------	-----	-----------

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	本 間 力 君
主 査	八木橋 直 紀 君

人口減少に対応する政策研究会（第30回）

【調査事項】

事務調査：人口減少に対応する政策研究「若者定住」について

1. 視察の振り返りについて

- 大淵座長 先日の二つの視察地についてどのような感じたかを伺いたい。
- 西田委員 東川町では町職員はじめ議員の方々のまちづくりにかける熱量がすごくあるように思った。自分のまちに誇りを持って町政に一丸となってよいものをつくろう努力する姿が見られた。自分のまちに住み、その土地で根をはっていく事が大事であると感じた。
- 久保委員 東川町は地元の木材にこだわり、まちの景観に活かす取組、三笠市の三笠高校の取組はいい勉強になった。東西に長い白老町のコンパクトシティ化について考える機会となった。
- 長谷川委員 東川町は子供たちの生き生きした姿が印象的。日中まちなかや図書館に若い人たちがおり活気があった。三笠市は市立高校として調理に特化した取組を市や食品業界を上げて支援している。白老においても国際交流、異文化共生など教育面に特化したものがあれば良い。
- 森委員 東川町訪問前は写真のまちのイメージしかなかったが、まちなかはとても活気があった。今回の様々な視察地の取組をどのように白老に合ったものとするかが課題。三笠高校では高校生レストランが定休日であり見られなかったので、レストランの中も今後見てきたい。
- 佐藤副座長 東川町では町職員の意識が非常に高いと再認識した。「前例がない」「予算がない」という言葉は使わない。白老町ではどのように議員側から行政に働きかけるが課題。三笠市は地域おこし協力隊の活動がテレビに取り上げられ、メディアによる認知度向上の有効性があることが分かった。高校をひとつの産業と捉えていた。白老も高校が2校あるので生かす取組をしてみてもは。
- 西田委員 視察先では補助金、民間の助成金の活用を力を入れていた。オフィシャルパートナー制度など我が町にはウポポイがあるので活用することも考えられる。また、地域おこし協力隊の活用の仕方も柔軟にしている。白老でも協力隊が地域住民と何かをつくり上げていく大きな構想を持たないと地域おこし協力隊が活かされないのではないかと。たくさんある補助金の中から自分たちにどれが使えるのかを考えるいい機会となった。
- 久保委員 両自治体の道の駅も視察したが、道の駅はまちの象徴である部分があり、まちおこし、PRとしては大切。当町はまだ道の駅はないが今後はしっかりと構想を練ってもらいたい。
- 佐藤副座長 東川町の図書館が併設されている施設では10か国の外国語が飛びかい日本語学校の多文化共生が体现されていた。白老町にも多くの外国人がおり、その方々を活用できる補助制度もある。庁内に文化交流課の新設も考えては。
- 大淵座長 東川町では政策と財政がきちんとしている。先を見据えて財政が組まれている。何かハコモノをつくるとしたら5年から8年前から特定目的基金、さらに将来の若い人たちに負担がかからないよう減債基金も積んでいる。町職員のやる気をすごく感じた。将来的な政策づくりと財政がしっかりしているまちは、仕事がきちんとできると思う。三笠市は人口6万人が10分の1の8,000人になった。職員も大変なご苦労のなか道内で3番目に多い地域おこし協力隊を活用した三笠高校を見出した政策視点は素晴らしい、視察地は両方ともうまくマスコミを活用している。同行した事務局からも感想をお願いしたい。
- 八木橋主査 東川町では町に対しての質問に行政側だけではなく議長・副議長も積極的に回答する場面が多々あった。行政と議会に一体感があり同じ方向を向いていると感じた。三笠市については高校を市立化し、目玉である高校生レストランの事業は力が入っていると感じた。
- 本間事務局長 東川町の様々な成功事例は先を見越した財政の在り方にある。町管理職が横断的に町政・施策を共有している。白老町も見習うところはある。また、補助金についても補助金があるから事業展開するのではなく政策をどのように実現するかを考えた上でそれに見合う補助制度の活用を図ることが大切。三笠高校のブランド力はすごい。白老町内でも食材王国、食育教育とか取り組んできたが町内にはまだまだ資源があるので、マスコミをうまく活用していければと思う。
- 西田委員 東川町、三笠市共に子育て、教育に関して独自の路線があると感じた。白老町の教育の中に柱を持つことも大切ではないか。まちづくりに関するPRの仕方が上手である。白老も広報活動にもっと注力すべき。
- 佐藤副座長 東川町はよく成功事例と言われているが、当該職員からしてみれば挑戦事例である

と言っていたのが印象的。白老町においては絶えず情報のアンテナを張っておくが大切ではないか。
○森委員 コロナ禍以前に三笠市の道の駅を訪れたが、太古の湯までの間に屋台等が 10 件ほど並び賑わいがあった。やはり人が流れる導線が大事であると感じた。白老もウポポイとインフォメーションセンターの間の導線をうまくつなげてほしい。

2. 政策提言に向けて

○本間局長 9月会議で中間報告をした項目からさらにコンパクトにまとめられた内容となっているが提言書を作成するにあたりブラッシュアップすることが必要であればご協議いただきたい。

○大淵座長 基本的には中間報告及び政策提言案のままでいくということによろしいか。(一同: よろしい)